



ペルセウス座流星群を見よう!

8月に入り天気のいい日が続いていますが、夏の風物詩「ペルセウス座流星群」の極大日(8月13日未明)が近づいてきました。今年は、月の条件が最良であることを、7月12日のだよりで紹介しました。観察は、1時間(50分)にいくつかの流れ星を数えることができたかカウントすることが基本です。続けて観測することを考えて、1時間あたり10分間の休憩時間を考慮して50分観測を行います。こうして得られた記録は、あなただけの貴重な記録となります。他の人の記録とも比較できます。



最初にここを見て情報を得よう!

<https://www.youtube.com/watch?v=HIvXY92CHnw&t=7s>

観測を行う前にさまざまな情報収集を行うことは大事です。ギャラクシティでは、ペルセウス座流星群とその観察方法をまとめたビデオをギャラクシティ・エンターテインメントとして公開しています。最初に見ていただくとよいでしょう。さらに詳しく知りたい場合は、国立天文台の一般向け情報や、報道関係者向け情報も参考になると思います。

ペルセウス座流星群でも、時々「火球」と呼ばれる明るい流星が見られることがあります。明るさがマイナス4等級以上のものが「火球」に分類されます。もしも火球の出現を目撃したら、日本流星研究会の火球目撃掲示板に書き込んでみてはいかがでしょうか。火球も流星も地表から100キロメートル付近で光りはじめ、70キロメートル付近で消えます。同じ流星や火球はかなり広い範囲で見られるので、きっと同じ火球を目撃した人がいるはず。こうして、あなた自身の星仲間を増やしていくのも楽しいことです。

観測は8月12日の夜から準備を始めましょう。忘れてしまっても、天気が悪くても大丈夫です。ペルセウス座流星群は極大日の前後2-3日は必ず多くの流星を見せてくれます。ペルセウス座流星群が「流星群の王者」たる所以です。

2021年8月7日記 (解説員:田部 一志)